

彦根城 -徳川期日本の地方統治拠点における大名による統治システムの物証-

17世紀の日本では、①大名が中央政府から当該地域で唯一の統治拠点を与えられ、その権威を示すとともに、②重臣たちに領地と領民の個別統治を行わせず、自らの統治拠点に集住させて、ともに政治を行うことを特徴とする、諸外国に類をみない「大名統治システム」が成立し、江戸時代の長期間にわたる社会秩序の安定に大きく寄与した。

彦根城は、江戸時代（1603-1867）の日本における代表的な地方統治拠点であり、城の全体構造によって「大名統治システム」を体現する希有な物証である。

【大名統治システムを伝える彦根城（滋賀県彦根市）の物的要素】

堀・石垣・土塁

天守・櫓・門

御殿

重臣屋敷



天守



堀